「高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）」
自己点検・評価シート

１．達成目標に対する進捗状況

区分	項　　目	目　　標	令和７年度までの進捗状況
臨床研究	達成目標	重要な臨床研究としてa. 診療ガイドラインに引用される介入試験、b. 承認申請の審査資料となる医師主導治験、c. 悉皆性の高いレジストリー研究、と定義し、それぞれが3、5、10本以上となることを目指すことで、医療の質の向上や治療の早期開始、研究者の育成に貢献する計画である。	令和6年度は、臨床研究支援体制の強化に向け、研究支援機能の高度化や研究DX推進のための基盤整備を進めるとともに、DCT（分散型臨床試験）導入に向けた環境整備を実施した。また、カリフォルニア大学サンディエゴ校を訪問し、先進的な研究支援体制やデジタル技術の活用事例等に関する調査・情報収集を行うとともに、若手医師を対象とした研究交流の場を設けることで、診療科横断的なネットワーク形成や研究マインドの醸成など、将来の研究人材育成に向けた取組を推進した。 令和7年度には、これらの取組を基盤として、倫理指針下の介入研究においてDCTを導入・実施するなど、整備してきた体制を実際の研究へ展開する段階へと進展した。また、生成AIを活用した研究支援の検討・導入を進め、研究支援業務の効率化や高度化に向けた取組を推進するとともに、若手医師を対象とした研究交流会等を継続的に開催し、研究人材の裾野拡大と学内ネットワークの強化に取り組んでいる。 さらに、佐賀大学及び宮崎大学に対する医師主導治験支援を実施するなど、地域の研究機関との連携を推進している。これらの取組は、本事業を通じた研究支援機能の強化に加え、本学がこれまで培ってきたARO機能、研究支援ノウハウ、人材及び臨床研究基盤の蓄積を活用することにより実現したものであり、本学で培われた知見や支援機能が地域へと展開されつつあることを示している。
臨床教育	達成目標	本事業の実施により、医学生によるコモンな疾患の経験と医行為の経験の着実な実施と医学生の教育スキルの向上、学修履歴の可視化による学生の臨床参加型臨床実習の充実が実現する。さらに医師養成全課程での教育スキルの向上と教育のＤＸ化による教員の負担も同時に解決するモデル体制構築を実現できる。また教育業績の可視化によるClinical Education trackの礎を構築できる。この成果は全国の大学が抱える同様の課題に対してモデルとなるものであり、その波及効果は大きく、最終的には医療水準の向上につながることが期待される。	令和6年度より医学教育学および臨床教育研修センターと連携し、専攻医・研修医を対象とした教育スキルトレーニングオンラインプログラム（NPLプログラム）の開発・運用を進め、医学生向け授業や学内外への普及体制を構築した。患者同意取得業務のDX化に向けて電子カルテ管理部門や富士通と協働しアプリ開発を推進するとともに、臨床実習記録の電子化・可視化を目的にMoodleを活用したシステム開発と導入準備を進めた。さらに、地域医療実習の充実、事務体制強化、シミュレータ活用、地域医療教育研修会開催、医行為実施率向上に向けた調査・検討を行い、臨床実習の充実を図った。

２．各年度の実施状況

【令和６年度の事業実績報告】

事業目標	事業実績の概要
九州大学の理念等に基づき、我が国の医学・医療の多彩な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く世界で活躍する医師・医学研究のリーダーの養成を積極的に推進する。その機能強化につなげるため、本事業における臨床研究面では、若手研究者による横断的な組織を設立し、診療科の枠を超えた交流を促進し、革新的なアイデアの創出を目指す。また、優秀な臨床研究支援人材の登用し、持続可能な体制となる改革を行う。次に、教育面では、診療参加型臨床実習充実のため、医行為経験が円滑に進む体制の整備および医学教育学上効果が確立しているNear Peer Learningを卒前卒後シームレスに導入し、また医行為同意書取得の簡素化などの実現を目指しながらも、教員の負担軽減も可能にするモデル組織の構築実現を目指す。	本事業における臨床研究面では、若手研究者による横断的な組織にてメンターを担う学内で募集・指名し、6名を確保した。初年度には、カリフォルニア大学サンディエゴ校をメンターの1名、ARのスタッフ1名で訪問・査察し、橋渡し研究・臨床研究支援の先進的な取り組みを学んだ。また、生成AIにより臨床試験の品質管理に関わる業務の効率化が可能か検証した。さらに、優秀な臨床研究支援人材の登用し、持続可能な体制となる改革を行う。 教育面では、下記に示すように診療参加型臨床実習充実にむけて、事務雇用、教員募集、シミュレータの購入、教員負担軽減のための同意書DX化の準備を行った。Near Peer Learningを卒前卒後シームレスに導入するためのEラーニングプログラムを構築した。

		事業実施計画	具体的成果
臨床研究	①	診療科の枠を超えた交流促進のための組織メンバーおよび臨床研究メンターの参加希望を募り、若手医師のグループによる教育を推進するための準備開始。	若手医師の会のメンターを6名確定し、令和6年度は、そのうち1名と、ARのスタッフが、カリフォルニア大学サンディエゴ校の橋渡し研究支援拠点及び、ARを訪問し、先進的な臨床研究支援を学んだ。
	②	臨床研究を効率化するICT等の導入開始。	ユビー社との協議。Buzzreach社に業務委託し、治験の支援業務のタスクの一部を生成AIで作成し、ノウハウを取得した。
	③	臨床研究支援者のキャリアパス設計に向けて協議を開始。	臨床研究支援組織であるAR次世代医療センターが導入している人事評価を活用したキャリアパス設計及び無期雇用を含めた協議を開始。
	④	臨床研究支援職として教員および臨床研究専門職員等の配置による研究支援体制の整備。	臨床研究支援組織であるAR次世代医療センター及び関係部署へ臨床研究支援人材を配置かつ、若手研究者による横断的な組織メンター６名を指名。優秀な臨床研究支援人材の登用持続可能な体制となる改革を行う体制を整備した。
	⑤	DCT推進のための準備。	電子カルテ内に作成したEDC-電子カルテ連携システムの改修を行い、産婦人科の研究においてテスト運用を行った。治験薬（注射薬）を専門業者ではなく、宅配便での運用する手順と、シミュレーションを実施した。また、SOPの整備も行った。
臨床教育	⑥	授業開講準備、NPL-プログラム開始準備。	専攻医、研修医を対象とした教育スキルトレーニングオンラインプログラム（ニアピアラーニングプログラム：NPL-プログラム）の準備を行い、完成させた。令和7年度から運用を開始する。医学生へは、NPLの授業を実施する。 また学内でもNPL活動を普及推進するための準備会議を行った。将来的には九大モデルを全国に還元することを念頭に学外の協力者にも参画いただいて準備を進めている。
	⑦	担当部署と同意書取得のDX導入準備打ち合わせと導入準備。	教員の大きな負担となっている患者への同意書取得業務について、DX化を進めるため、電子カルテ管理部門（メディカルインフォメーションセンター）と準備の打ち合わせを開始した。
	⑧	九大のアウトカム仕様に教育実績評価に係るシステムをカスタマイズする作業開始。	医学生の臨床実習記録の電子化、可視化のため、臨床実習記録システムを導入する準備を進めている。九大によりマッチしたプラットフォームの選定を行っている。併せて事務作業を滞りなく推進するため、事務の雇用と、作業を円滑に進めるための環境整備を行った。
	⑨	シミュレータ教育の充実に向けたプラチナナース（テクニカルスタッフ）の募集と配置等の準備。	適任のプラチナナース雇用が難しかったため、事務職員を雇用し、シミュレータ教育の充実が図れるよう体制整備を行った。診療参加型臨床実習を推進するためのシミュレータを購入した。
	⑩	地域医療実習の充実に向けた実習コーディネーター、事務補佐の配置等による実習支援体制の整備。	地域医療充実に向けた実習コーディネーターを令和7年度から雇用するため教員を募集した。また、事務体制強化を行った。
	⑪	臨床実習指導医認定制度導入準備。	制度の準備にあたり、誰をどのような形式で認定するか、また履修内容をどうするかについて検討を行った。
共通	⑫	ICTや医療DXの活用による業務の効率化。	業務効率化による医師の負担軽減と、ゲノムデータのデータベース化による臨床研究の促進に向け、ゲノム検査に関するデータを一元管理するためのゲノム検査業務支援システムを導入した。医師の教育研究時間の確保に向けて、環境整備を進めた。

【令和７年度の事業実績報告】

事業目標	事業実績の概要
九州大学の理念等に基づき、我が国の医学・医療の多彩な分野において指導的な役割を果たし、アジアをはじめ広く世界で活躍する医師・医学研究のリーダーの養成を積極的に推進する。その機能強化につなげるため、本事業における臨床研究面では、若手研究者による横断的な組織を設立し、診療科の枠を超えた交流を促進し、革新的なアイデアの創出を目指す。また、優秀な臨床研究支援人材を登用し、持続可能な体制となる改革を行う。次に、教育面では、診療参加型臨床実習充実のため、医行為経験が円滑に進む体制の整備および医学教育学上効果が確立しているNear Peer Learningを卒前卒後シームレスに導入し、また医行為同意書取得の簡素化などの実現を目指しながらも、教員の負担軽減も可能にするモデル組織の構築実現を目指す。	本事業では、交付申請時の計画に基づき、臨床研究体制の強化と医学教育の充実に向けた取組を着実に実施した。臨床研究面では、診療科横断的な会議体の運用や当院の臨床研究支援組織であるARO次世代医療センター（以下「ARO」という。）を中心としたICT・医療DXの導入により、研究支援体制および研究効率の向上を図った。また、DCTの実施や医師主導治験支援を通じ、学内外における臨床研究支援機能の強化を進めた。教育面では、ニアピアラーニングプログラムの提供、CC-EPOCのカスタマイズ準備、医行為実施の充実に向けた取組を行い、卒前・卒後教育の質向上を図った。さらに、地域診療参加型臨床実習の運用開始やFDの実施により、地域医療教育体制の整備を進めた。

		事業実施計画	具体的成果
臨床研究	①	診療科の枠を超えた交流促進のための臨床研究メンターとともに、組織メンバーの追加を募る。今年度若手医師のグループによる教育を推進するための会を最低1回開催する。	トライアルマネージャー会議にて、各診療科の中堅の「臨床研究管理医師」を配置し、2ヶ月に１回の会議において「臨床研究の豆知識」コーナーを設け、活発なディスカッションを行った。
	②	臨床研究を効率化するICT等をAROにて運用し、課題を抽出する。	臨床研究を効率化するICT等をAROにて運用し、課題を抽出した。 特に、機械学習を可能とするためのグラフィックボードを強化し、高度なデータ解析環境を整備した。また、REDCapのデータを直接参照可能なBusiness Intelligenceツール（モーションボード）を導入し、研究者が効率的に臨床研究データを分析・提示できる環境を構築した。これにより、研究の質とスピードの向上に寄与した。
	③	臨床研究支援者のキャリアパス設計に向けた協議を継続し、課題整理を行う。	AROが導入している人事評価を活用したキャリアパス設計及び無期雇用を含めた協議を継続するとともに、課題抽出を行った。
	④	臨床研究支援職として教員および臨床研究専門職員等の配置による研究支援体制の整備について継続検討。	支援人材の専門性向上と定着を促すための具体的な方策について検討を進めた。
	⑤	DCTの実施。	倫理指針下の介入研究をDCTとして実施した。また、AROが支援して、佐賀大学の医師主導治験を実施した。宮崎大学の医師主導治験に関しても、AROが支援して、次年度の実施のAMED資金を獲得した。
臨床教育	⑥	研修医、専攻医にNPL-プログラム提供開始。	医学教育学、臨床教育研修センターと共同で令和6年度から専攻医、研修医を対象とした教育スキルトレーニングオンラインプログラム（ニアピアラーニングプログラム：NPL-プログラム）の準備を行い、令和7年度初旬に完成させた。令和7年度には研修医・内科専攻医を対象にプログラムを提供し、高い評価を得た（履修者研修医　24名、専攻医　41名）。将来的には九大モデルを全国に還元することを念頭に学外の協力者にも参画いただいて準備を進めている。
	⑦	同意書取得のDX化としてアプリを導入（パイロット）。	定期的に電子カルテ管理部門（メディカルインフォメーションセンター）と準備の打ち合わせを行い、富士通とも共同で現在アプリを開発中である。また病院関係部署とも協議し、円滑な導入に向けて議論・検討を重ねている。
	⑧	CC-EPOC九大カスタマイズ。	医学生の臨床実習記録の電子化・可視化のため、臨床実習記録システムを導入する準備を進めている。九大によりマッチしたプラットフォームの選定を行い、Moodleによる運用が最も効率的と判断し、アドインの修正を実施している。併せて事務作業を滞りなく推進するため、事務職員の雇用と、作業を円滑に進めるための環境整備を行った。
	⑨	数診療科でCC-EPOC部分導入（パイロット）。	現在、Moodleのアドインを開発中であり、でき次第パイロットを開始する。
	⑩	地域における医学生の診療参加型臨床実習の運用開始。	地域医療充実に向けた実習コーディネーターを令和7年度から雇用した他、事務体制強化を行った。オリエンテーションで高齢者医療の講義を開始し、さらに地域医療教育に協力いただいている施設のスタッフに参画いただき研修会を開催した。また、医行為の実施率向上について議論を行った。

	⑪	地域医療実習充実のためのFDの開催。	地域医療教育に協力いただいている施設のスタッフに参画いただき地域医療実習報告会を開催した。
	⑫	臨床実習指導医認定制度運用開始。	現制度上でどのように位置づけるか検討を行った。
	⑬	診療科ごとに医行為の実施の割り振りを検討する。	シミュレータを貸出し、臨床実習の充実を図った。また、各科に医行為実施可能性に関するアンケート調査を行った。令和8年度の医行為実施の向上に向けて各診療科にごとに相談し、割り振りを検討する。
	⑭	医行為実施の充実。	教育主任会議で、臨床実習全体の医行為実施に関する報告を行い、引き続き医行為実施指導について依頼を行った。
共通	⑮	ICTや医療DXの活用による業務の効率化。	診療用Ubie生成AIを研究支援のために「治験環境用Ubie」として全国で初めて導入した。 これにより、文献検索、プロトコル作成支援、データ解析補助など、多岐にわたる研究活動の効率化を図った。また、AROの担当教員が、臨床試験学会にて、生成AI活用のワークショップにてファシリテータを勤め、院内でも前述したトライアルマネージャー会議にて生成AI利用のコツをフィードバックした。その他、⑦⑧⑨を通して、業務の効率化を図っている。

３．その他

上記以外で特記すべき事項、事業の進捗が遅れている場合等の次年度以降の対応など）
来年度は同意書取得のDX化としてアプリを正式導入する。臨床実習記録の電子化・可視化のため、臨床実習記録システムを実装していく。

４．自己評価

臨床研究の評価	B
臨床教育の評価	B

〔選択肢〕A：事業計画・達成目標を上回るペースで進捗している。
B：事業計画・達成目標に対して順調に進捗している。
C：事業計画・達成目標に対してやや進捗が遅れている。
D：事業計画・達成目標に対して大幅な遅れが生じている。

評価の理由・分析等

【臨床研究】
令和6年度に実施した基盤整備、先進事例の調査及び人材育成に向けた取組が、令和7年度にはDCTを活用した介入研究の実施、生成AIを活用した研究支援、若手研究者コミュニティの形成及び他機関への研究支援といった具体的な成果へとつながっている。これらの成果は、本事業による機能強化と、本学が従来より構築してきた臨床研究基盤が相乗的に作用した結果であり、本事業はその発展を加速させる役割を果たしている。研究実装、人材育成、研究DX及び地域連携を一体的に推進することで、本学の臨床研究基盤は着実に強化されており、中長期的な目標達成に向けて順調に進捗している。

【臨床教育】
専攻医・研修医向けNPLプログラムの開発・運用、患者同意取得業務のDX化、臨床実習記録システムの整備、地域医療教育体制の強化を並行して推進し、各事業は概ね順調に進捗している。これは、医学教育学、臨床教育研修センター、電子カルテ管理部門、診療科、地域医療機関等との連携体制が構築され、定期的な協議のもと課題解決が図られているためである。また、事務職員の配置による実施体制の強化に加え、学内外関係者の理解と協力が得られており、円滑な事業推進につながっている。

KPI関連

1．社会への発信

(1) 本事業のウェブサイトへの公開状況

項目	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
① 事業概要、本事業に係る問合せ先、事業責任者、担当教員名等の掲載	×	×				
② 教育プログラム・コース内容の詳細の明示。（講義・実習等の詳細な内容、教員名等の掲載）	×	×				
③ 教育プログラム・コースの受入目標人数及び履修者数の掲載。	×	×				
④ 学生向けのPRのためのページの有無（履修者の意見、キャリアパスにつながる支援等）。	×	×				
⑤ 最新のトピックス（新着情報、活動報告等）などの情報の随時更新。	×	×				
⑥ 他大学の参考となるような（普及促進に向けた）情報の掲載（特色ある取組、導入経緯やノウハウ、留意点等）。	×	×				

(2) 本事業のウェブサイトのホームページのURL

名称	ウェブサイトのURL
九州大学病院臨床教育研修センター	https://www.kenshu.hosp.kyushu-u.ac.jp/
九州大学病院ARO次世代医療センター	https://www.aro.med.kyushu-u.ac.jp/

(3) 本事業のウェブサイト及びSNS（X(旧Twitter)、facebook 等）の更新回数

年度	ウェブサイト更新回数	SNS更新回数
令和6年度	0	0
令和7年度	0	0
令和8年度		
令和9年度		
令和10年度		
令和11年度		

（4）令和7年度に本事業において開催したセミナー・シンポジウム等の実績

年度	セミナー・シンポジウム等の名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	参加者数		参加大学数	
							学内	学外	申請担当連　携	左記以外
令和6年度	診療参加型臨床実習充実セミナー～磯部真倫教授講演会～	国立大学法人九州大学	1	30	1	1	29	0	0	0
	若手指導医養成セミナー	国立大学法人九州大学	1	50	4	1	3	40	0	3
	臨床研究認定更新講習「生成ＡＩによる臨床研究の加速	国立大学法人九州大学	2	100	1	0	0	0	0	0
令和7年度	実績なし									
令和8年度										
令和9年度										
令和10年度										
令和11年度										

２．外部評価

（1）本事業の取組に係る外部評価の取組状況について記載

年度	実施状況
令和6年度	×
令和7年度	×
令和8年度	
令和9年度	
令和10年度	
令和11年度	

３．指標の設定と実績

（1）本事業の予算で登録するTA・RA・SAを担う学生数

※両活動に参加している場合は、主たる役割に準じて記載

※本事業におけるTA（ティーチング・アシスタント）、RA（リサーチ・アシスタント）、SA（ステューデント・アシスタント）の役割

TA［大学院生］：研究の遂行に関して、SAに対する必要な指導を行う。

RA［大学院生］：研究室における研究の各プロセスにより主体的に携わり、実践的な経験を数多く積むことで、研究遂行能力の育成に努める。

SA［医学生］：研究室での実際の研究活動に参画することを通じ、基礎的な研究能力を涵養する。

		登録者予定人数(新規)						令和6年度登録実数	令和7年度登録実数	令和8年度登録実数	令和9年度登録実数	令和10年度登録実数	令和11年度登録実数
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
TA	教育活動	76	73	74	74	74	74	76	73				
	臨床研究活動	0	0	0	0	0	0	0	0				
RA	臨床研究活動	8	8	8	8	8	8	0	10				
SA	教育活動	0	0	0	0	0	0	0	0				
	臨床研究活動	0	0	0	0	0	0	0	0				

【アウトプットと評価指標】
◆臨床研究環境の充実
・ＲＡの増加

（2）医学系大学院生数

※医科学研究科（医科学専攻）に所属する大学院生の数を記載

	新規入学者 予定数						令和6年度実数（新規入学者）	令和7年度実数（新規入学者）	令和8年度実数（新規入学者）	令和9年度実数（新規入学者）	令和10年度実数（新規入学者）	令和11年度実数（新規入学者）
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
修士課程	40	40	40	40	40	40	40	45				
博士課程	107	107	107	107	107	107	119	135				
小計	147	147	147	147	147	147	159	180				

【アウトカムと評価指標】
◆医学系大学院生の維持

(3) 臨床研究にかかる論文数

※貴大学所属（連携校含む）の正規教員、診療医、大学院生の実績を記載

※臨床研究にかかる内容で、査読付きの論文（英語）数を記載

※各年度内の雑誌掲載数を記載（年度内に掲載が受理（アクセプト）された数も含める。）

	論文発表予定数(新規)						令和6年度発表実数	令和7年度発表実数	令和8年度発表実数	令和9年度発表実数	令和10年度発表実数	令和11年度発表実数
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
筆頭論文	377	399	422	422	422	422	480	458				
共著等	297	314	332	332	332	332	205	203				
小計	674	713	754	754	754	754	685	661				

【アウトカムと評価指標】
◆臨床研究論文数の増加

(4) 科研費の獲得実績

※貴大学所属（連携校含む）の正規教員、診療医、大学院生の実績を記載

	採択目標数(新規)						令和6年度採択実績	令和7年度採択実績	令和8年度採択実績	令和9年度採択実績	令和10年度採択実績	令和11年度採択実績
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
基盤研究 S	1	1	2	2	2	2	0	0				
基盤研究 A	2	3	3	3	3	3	2	5				
基盤研究 B	37	27	37	37	37	37	38	16				
基盤研究 C	113	119	113	113	113	113	111	133				
挑戦的研究（開拓）	1	1	1	1	1	1	2	3				
挑戦的研究（萌芽）	9	7	9	9	9	9	7	10				
若手研究	70	74	70	70	70	70	74	65				
挑戦的研究＋若手研究 小計	80	82	80	80	80	80	83	78	0	0	0	0
総計	233	232	235	235	235	235	234	232	0	0	0	0

(5) 研究支援者数

※本事業を通じて配置した研究支援者（CRC、プロジェクトマネジャー（PM）データマネジャー（DM）等）の人数を記載

※TA・RA・SAは除く

	職種	研究支援者　配置予定人数						令和6年度 現員数	令和7年度 現員数	令和8年度 現員数	令和9年度 現員数	令和10年度 現員数	令和11年度 現員数
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
研究支援者	PM	3	1	1	1	1	1	23	27				
	CRC	0	0	0	0	0	0	22	26				
	モニター	0	0	0	0	0	0	3	2				
	安全性情報担当	1	1	1	1	1	1	3	2				
	データマネージャー	0	0	0	0	0	0	10	10				
	IT担当	0	0	0	0	0	0	4	4				
	生物統計家	0	0	0	0	0	0	4	4				
	知財担当	0	0	0	0	0	0	2	2				
	倫理担当	0	0	0	0	0	0	1	1				
	その他支援者	14	9	9	9	9	9	40	31				
小計		18	11	11	11	11	11	112	109	0	0	0	0

(6) 門田レポートで医学生が実施されるべきとされている医行為の数及び経験率

※別紙様式1に記載

（7）教育・研究時間の維持・増加

① 医師（常勤教員）数

※ 教育・研究支援者を配置する研究室・診療科等に所属する医師（貴学の常勤教員）の総数を記載。専攻医等の人数は含まない。

（令和8～11年度は見込みの数を記載）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度（見込み）	令和9年度（見込み）	令和10年度（見込み）	令和11年度（見込み）
医師数	338	343	348	348	348	348

② 教育・研究にかかるエフォート比率

※ ①に記載の医師の総エフォートを100%とした場合の教育・研究にかかるエフォートの比率を記載。

（令和6～7年度は実績値、令和8～11年度は目標値を記載）

	令和6年度（実績）	令和7年度（実績）	令和8年度（目標）	令和9年度（目標）	令和10年度（目標）	令和11年度（目標）
教育・研究のエフォート率	28.5%	28.8%	28.8%	28.8%	28.8%	28.8%

【アウトカムと評価指標】
◆教育・研究支援者を配置する研究室・診療科等の医師の教育研究時間の増加

③－1 エフォート比率の実績にかかる解説

※ ②に記載のエフォート比率の実績（令和6～7年度）に至った取組み内容や課題等について記載。

病院収入で教員の雇用を拡大したことにより、教員の診療負担が軽減され、研究・教育の充実につながった。

③－2 エフォート比率の目標値設定にかかる解説

※ ②に記載のエフォート比率の目標値（令和8～11年度）設定にかかる根拠を記載。

令和7年度と同率のエフォート比率を目標とする。

(8) 医学生の臨床能力の向上

① Post-CC OSCEを受験した医学生数

※ 診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）を受験した医学生の数を記載。
（令和8～11年度は見込みの数を記載）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度（見込み）	令和9年度（見込み）	令和10年度（見込み）	令和11年度（見込み）
医学生数	103	114	117	105	113	117

② Post-CC OSCEの概略評価の平均値

※ ①に記載の医学生（受験生）の概略評価の平均値を記載。
（令和6～7年度は実績値、令和8～11年度は目標値［前年度の目標値を上回る設定］を記載）

	令和6年度（実績）	令和7年度（実績）	令和8年度（目標）	令和9年度（目標）	令和10年度（目標）	令和11年度（目標）
概略評価の平均値	4.26	4.30	4.31	4.32	4.33	4.34

(9) 本学で設定した評価指標と実績

①臨床研究支援体制の充実（臨床研究支援者の増加等）

①－1 有期雇用の臨床研究支援者の無期化を含む人材定着について記載

臨床研究支援組織であるARO次世代医療センターが導入している人事評価を活用したキャリアパス設計及び無期雇用を含めた協議を開始した。

①－2 臨床研究支援者のキャリアパスの構築について記載

職域限定専門職員の配置を計画している。

【アウトプットと評価指標】
◆臨床研究支援体制の充実（臨床研究支援者の増加等）
・有期雇用の臨床研究支援者の無期化を含む人材定着
・臨床研究支援者のキャリアパスの構築

②診療参加型臨床実習の充実（教育支援者の増加）について記載

教育主任会議を定期的に実施し、教育支援者は確実に増加している。

【アウトプットと評価指標】
◆診療参加型臨床実習の充実（教育支援者の増加）

③教育スキルの習得状況

教育スキルの習得者	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
学生数	10	10				
研修医数	41	32				
専攻医数	24	37				

【アウトプットと評価指標】
◆教育スキルを修得した学生数
（令和11年度までに計100名）
◆教育スキルを修得した研修医数
（令和11年度までに計100名）
◆教育スキルを修得した専攻医数
（令和11年度までに計100名）

④臨床実習指導オンライン講習履修状況

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
履修者数	25	23				

【アウトプットと評価指標】
◆臨床実習指導オンライン講習履修者数
（令和11年度までに計300名）

⑤学生による臨床実習評価の満足度

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
満足度	4.34	4.36				

【アウトプットと評価指標】
◆学生による臨床実習評価の満足度
（令和11年度までに平均4.9/5達成）

⑥協力医療機関数の状況

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
機関数	62	63				

【アウトカムと評価指標】
◆協力医療機関数の増加